

## 後期学校関係者評価書

文責 教頭 清水 ゆみ

### 第2回学校関係者評価委員会

実施日 令和3年1月14日（木）

会場 校長室

参加者 戸栗 淳（評議員） 手塚 正彦（評議員） 山本由美子（評議員）  
望月 君江（評議員） 正木 梢（評議員） 金丸 賢二（PTA会長）  
笹本 忠彦（校長） 清水 ゆみ（教頭） 中島 則雄（教務主任）

#### I 学校から提案する内容

- ・自己評価結果
- ・児童アンケート結果
- ・保護者アンケート結果
- ・学校評価考察

#### II 協議される主な内容

学校評価考察をもとに、学校の現状（成果と課題）や取組等について情報を共有・協議し、学校・家庭・地域の連携協力により学校運営の改善を目指す。

#### <学校評価考察>

はじめに

本校では、これまで長年にわたり【やる気・元気・根気・勇気・思いやり】の「五本の木」が校訓として受け継がれてきている。この校訓を受けて、「学びを深め、豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成」を令和2年度の学校教育目標に掲げ、学校長をリーダーに全職員が一丸となって児童の育成に携わっている。また、白根東小学校の目指す児童像は、「情報や考えなどを的確に理解し、判断の根拠や理由を明確に示しながら、自分の考えを述べることができる児童」である。この目標を実現するために、教職員一人ひとりが日々の教育活動に取り組んでいる。しかし、それぞれの教職員がいくら一生懸命にがんばったとしても、目標に向かうベクトルの向きがバラバラでは「学校」として大きな成果は望めない。それはまた、保護者や地域との関係においても同じことが言える。各自の個性やアプローチの仕方は尊重しつつ、チームとして目指す同じゴールに向かっていきたいと考えている。学校評価はそれを検証する貴重な機会であるにとらえ、そこから見えてくる・見つけられる事実としっかり向き合っていく必要がある。

「A」（あてはまる）「B」（どちらかというにあてはまる）を肯定的意見、「C」（どちらかというにあてはまらない）「D」（あてはまらない）を否定的意見にとらえる。自己評価（教職員）はすべての項目について肯定的意見が100%となり、児童アンケートもすべての項目で85%を超え、更に

保護者アンケートもすべての項目で90%を超えており、全体的にみておおむね満足できる状態であるといえる。また、ここ数年間の集計結果は多少の数値の変動はあるもののほぼ同じような結果になっている。ただ、そこから見えてくる課題を見つけ取り組みを進めていくことがさらなる高みを目指すためには大変重要なことである。

#### <考察の視点>

中央教育審議会答申（H28.12月）で教育課程改訂の方向性として「社会に開かれた教育課程」という提言がなされ、令和2年度には新学習指導要領が小学校で完全実施され学校を取り巻く状況はめまぐるしく変わろうとしている。答申では①より良い学校教育を通じてよりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有していくこと。②必要な教育内容を教育課程において明確にすること。③学校と社会との連携・協働によりその実現を図っていくこと、の3点が示された。以前から、学校・地域社会の連携の重要性を意識し取り組んできているが、さらに連携・協力を深めていく良い機会ととらえたい。「より良い学校教育がよりよい社会を創る」という考え方は「逆もまた真」で、「よりよい社会がより良い学校を創る」と読み替えることもできる。学校と地域社会が「Win・Win」の関係を築いていくことが「学校」にとっても「地域」にとっても大変重要だと考える。

#### <全体的傾向>

自己評価（教職員）はすべての項目について肯定的意見が100%を超え、保護者アンケートでもすべての項目で90%を超えている。また、児童アンケートの肯定的評価は2つの項目（⑪⑬）以外は90%を超えている。さらに、意見記入欄を設けたところ、「先生方の日々の努力・きめ細かな対応」に対して「感謝の気持ち」を書いていたいたり、コロナ禍の中での学校行事の開催等についてもお礼の言葉を書いていたいたりした。要望も含め日頃の指導に関する貴重な意見も寄せられた。全体的に見ておおむね満足できる状態ではあるが、このような結果や要望等から見えてくる課題を見つけ取り組むを進めていくことがさらなる高みを目指すためには大変重要なことである。以下に改善の糸口を挙げる。

#### <課題①>

自己評価（教職員）⑫「保護者・地域（及び関係機関）との連携・協力を努めていますか。」

保護者評価⑭「学校は、保護者や地域と連携・協力し、より良い教育活動を進めようとしていると思いますか。」

自己評価⑫では肯定的評価は100%（A：52 B：48）で、前期と比べて約20ポイントA評価が下がっている。また、保護者評価⑭も肯定的評価は97%（A：67 B：31）と高く、否定的評価が前年度より改善（3→2）された。感染症拡大防止策を講じる中で、例年通りに学校行事や校外学習、学習活動が実施できたわけではなかった一年であった。しかし、「教育活動」は学校だけで完結できるものではなく、「保護者や地域」の協力なくしては成り立たない。今後も、連携協力を積極的に推し進めていけるような体制を考えていきたい。

#### <課題②>

児童評価⑬「学校での様子を、家の人に話していますか。」

保護者評価①「お子さんと、学校の様子などを話していますか。」

児童評価⑬の肯定的評価は86%（A：61 B：25）とまずまずではあるが、否定的評価14%（C：7 D：7）は気になる数字である。また、保護者評価①も肯定的評価は98%（A：68 B：30）と高いものの、B評価は30%と課題を残している。保護者評価が比較的高いのに比べ、児童評価が低いことが気になる。児童が「あまり話していない」と感じているという点はやはり気になる。それぞれの家庭が抱える事情は様々であるが、家庭での会話を少しでも増やしていきたい。学校の様子を知ってもらうことや学校の教育活動への理解が進むことは、連携を深めていくためには欠かせないことであるといえるのではないだろうか。

#### <課題③>

自己評価（教職員）⑥「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めている。」

児童評価⑧「授業はわかりますか。」

保護者評価④「お子さんは、授業の内容がわかっていると思いますか。」

保護者評価⑦「学校は、基礎学力定着のために指導をしていると思いますか。」

自己評価⑥の肯定的評価は100%（A：80 B：20）でA評価も高い。児童評価⑧は肯定的評価が97%（A：83 B：15）と高いものの否定的評価が2%あることは気になる点である。保護者評価④は肯定的評価が95%（A：48 B：47）と高いものの、A評価が低いことは気になる否定的評価も4%ある。保護者評価⑦も肯定的評価は97%（A：62 B：35）と高いものの、B評価が35%と高くC評価が3%いることも気になる。自己評価と児童・保護者評価の間に認識の違いがあることは気になる点である。教職員と児童・保護者の到達目標点が違うのかもしれないが、児童にも保護者にもより学力が身についたと実感できるようにしていく必要がある。

#### <課題④>

自己評価（教職員）①「学校教育目標・目指す児童像・校訓を意識して、教育活動を進めている。」

保護者評価⑥「お子さんには、白根東小学校の目指す児童像「やる気・元気・根気・勇気・思いやり」が育っていると思いますか。」

自己評価①の肯定的評価は100%（A：75 B：25）である。保護者評価⑥では、肯定的評価が94%（A：43 B：51）と高いものの、A評価よりもB評価の方が高く、C評価も6%いる。「五本の木」については、学習面・生活面など様々な機会を通して具体的にイメージできるような言葉がけや意識化を図っていきたい。また、児童会活動を中心に児童に五本の木の成長が感じ取れるような取り組みも考えていきたい。

### <課題⑤>

前期同様に、児童に「学校で一番楽しみなこと」について記述式のアンケートを取った。予想どおりと言えるかもしれないが、教科学習が楽しみだという回答と共に、休み時間や給食・友だちとのおしゃべりなどが多く書かれていた。数値では測れない児童の違った一面を垣間見る手掛かりになるのではないだろうか。

### Ⅲ 出された意見と改善策

・令和2年度は、長期の学校休業があり、前年度までのペースでは学習内容がやりきれないと思うが、どうやってクリアしていくのか心配である。

\* 学校長の判断の下、今年度は全学年水曜日を6校時まで行い授業時数を確保したり、教科内容を横断した学習指導を実施したりするなどの工夫をしている。また、道徳科においても22の価値項目を網羅することで授業時数の余剰を他教科に充てることもできた。全学年が年度末までの授業時数をカウントし、学校長が教育課程の進捗状況を把握している。

・教職員が仕事をする中で無理をしていないか。気持ちが張り詰めていないか心配される。また、若手とベテラン教師は経験年数が違うので、全員が同じようにできるわけではないと思う。

\* 本校には各年代の教職員が在勤しているため、学年担当も若手とベテランが組み、経験豊富な職員が若手をリードしお互いに連携しながら仕事を行っている。今年度は、感染症の影響を受けて例年とは違った業務も増えているが、全員で協力し合い対応している。職員が健康でないと、子供たちにも十分な指導ができないので留意していきたい。

・新型コロナウイルス感染症について、家族が濃厚接触者の場合・児童で陽性者が出た場合は、学校はどのような対応するのか。また、学校からの情報は保護者へ迅速に伝えていただきたい。

・授業参観・学年部会の開催場所について、感染対策を講じる中で実施してほしい。

\* 今まで一度も開催できなかったが、授業参観は全学年体育館で行う。部会については、予め参加者数を把握し感染防止対策を講じる中で実施する。また、参加人数を考慮して体育館と理科室を計画している。

### まとめ

いまだに感染症防止対策が継続される中、保護者や地域の理解と協力を得て、児童が安心・安全に学校生活を送れるように環境の整備を進めるとともに、学校長をリーダーに「チーム東小」として日々の教育活動を進めていく。「東小の子供たちのため」という思いは、学校も保護者も地域も全く同じである。自己評価も児童アンケートもおおむね満足できる状態ではあるが、「地域の強い思い」「地域の教育力」を大事にし、お互いにコミュニケーションを図りながら連携を図っていくことで本校の学校教育目標の実現につながっていくと確信している。「児童が通いたくなる白根東小」、「保護者が通わせたい白根東小」、そして、「教職員が勤務したくなる白根東小」となるように、学校・保護者・地域のベクトルの向きを同じくして取り組んでいくことが、一番大事なことである。